



2025年1月6日

マツダ、山口県岩国市に車載用円筒形リチウムイオン電池の モジュール・パック工場を建設

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、車載用円筒形リチウムイオン電池のモジュール・パック工場を山口県岩国市に新設することを発表しました。新工場では、パナソニック エナジー株式会社(以下、パナソニック エナジー)から調達する車載用円筒形リチウムイオン電池セルのモジュール化とパック化を行います。2027年度の工場稼働開始を目指しており、完成した電池パックは、マツダの国内車両工場にて、マツダ初のEV専用プラットフォームを採用するバッテリーEVに搭載予定です。生産能力は年間10GWhを予定しております。

マツダは、2030年経営方針のもと、地球温暖化抑制という社会的課題の解決に貢献すべく、お客さまのニーズや規制の変化に応じたさまざまな技術的選択肢を用意する、マルチソリューション戦略にもとづき、電動化技術への準備を着実に進めています。電動車の重要部品の1つである電池においては、パナソニック エナジーと2023年5月に車載用円筒形リチウムイオン電池の供給に向けた合意書を締結し、2024年9月に本協業に関わる電池の生産増強および技術開発に関して、経済産業省より「蓄電池に係る安定供給確保計画」として認定されました。本計画にもとづき、新工場でモジュール・パック化した電池を活用し、デザインや利便性、航続距離などを高いレベルで実現させたマツダらしいバッテリーEVをお客さまにお届けします。また、本工場を通じて、地域の雇用や経済発展にも貢献していきます。

マツダは、2030年に向け、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る歓び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる歓び」をお届けしていくことを目指してまいります。

以上